

■ 大局を見極める

この時期になると心が忙しくなります。突然、赤信号でも飛び出す人が出てきたりします。なすべきことが増えてくるとそのような状況になりやすいものです。しかし、私たちは神様の前に出るときに、新しく変えられる道を信じていることができる喜びを感じる目線になりましょう。

皆さんは今年の最初、どんなテーマをかかげましたか。教会のテーマは「大観」でした。どうしても私たちは小さな出来事に目が行ってしまいます。しかし、神様は理不尽の中で全てを働かせて益とされるその力をもって奇跡を起こしてこられました。

今まで見てきたものの全ては、問題が起きたときにそれとどう向き合うかでよい実が結ばれるということでした。逆に全てが上手くいって順調だったとき、後になって大変な壊れ方をするということも見てきました。私たちは何を見なければならぬのでしょうか。

このピリピの書では、まさしく迫害下の中にある教会に対して、同胞たちが元に戻ろうとする痛みの中にあって、大きなものを見極めなさいということが言われている書であると言えます。

■ 信じることの喜び (ピリピ 3:13-3:21)

どのような試練にあっても喜びましょう。喜ぶ人はどのような奉仕をするのでしょうか。私たちの人生そのものが奉仕であるという話をしてきました。上手くいかない時にこそ信じることの喜びについて考えましょう。今日は信じることの喜びの最後の学びです。

■ 私に習うものになりなさい

パウロが伝えたかった「私に習え」は目線のことを言っています。これは正しい行いや完璧な姿ではありません。パウロは「私に習え」と言っています。目の前にあるものが何であるかをもう一度見極めろと言っています。教会の今年のテーマは「大観」です。見極めなさいというテーマを与えられていました。まず立ち止まって神様に聞いて、本当にそれが必要なかを受け取りましょう。その為に過去の傷によるプライドを捨てましょう。だからこそ、弱さの内にあるプライドを認め、決断が必要です。見なければならぬ1点は私達の最期(迎える死)を描き、そこに希望を持つことです。イエスキリストの十字架の死は生前にイエスが行った奇跡より全世界に知られています。これを見るだけでも死に様が大切だという事がわかります。

■ 私たちはすでに達しているところを基準

だからこそ目の前の事ではなく、神の計画に目を向

けるものになりましょう。その為に神様を手本にして生きようとしている人に目を留めましょう。比較劣等感で見るのではなく、隣で頑張っている人の姿を見て、一人ではない事を知ることができます。

■ 多くの人々がキリストの十字架の敵

自分自身のしていること、決断は大丈夫か？もう一度確認しましょう。十字架の敵になるような事はないでしょうか？

この地上の事に囚われていないでしょうか？また、人に影響されて、神様に「せよ」と言われている事がおろそかになっていないでしょうか？逆に「してはならない」ことをし続けてはいないでしょうか？もし、あなたの目線がズレていたら、新しい年に見るべきものを正しく見る事はできません。

さいごに…

神様が人間だけに与えている、意思をもって決断する力によって自分を管理していきましょう。私たちが任されているものを保つことが大切です。もう一度、今の状況がなぜ起きているのかを祈り、なぜなのかを見極め神様に委ねていきましょう。

「キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目指して一心に走っているのです。」ピリピ 3:14

パウロは、最期の日を見ていました。最後に死刑にあうことを知っていました。パウロはそれを栄冠だと言っています。これはまさに「大観」の視点です。

目の前の一点しか見えなくて、起きたことに右往左往して、それを悲観的に捉えて誰かに何かを言われると全てが終わってしまったような気持ちになり、全てを捨ててしまうような決断をすることがあります。しかし、私たちがしないといけない1年の最後のテーマは、「大観」です。それが無いと来年を見ることはできません。まだ間に合います。私達のズレた目線をイエス様の元に戻し、するべき事をやり残してしまわないよう一年を締めくくりましょう！